



NARITA EVOLUTION

株式会社成田製作所

会社紹介資料

2023年 6月更新



世の中の「移動」を守るメーカー



鉄道車輛部品



二輪車両部品

会社の成り立ち・歴史

昭和13年 会社創立

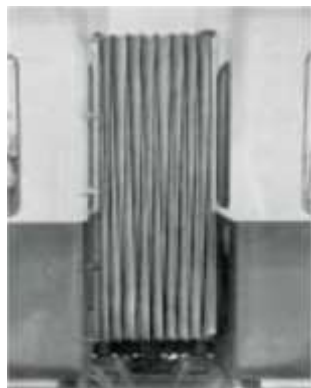
はじめは機関車に使う
蝶番(ヒンジ)からスタート



プレス蝶番



昭和21年 “ホ口の成田”の始まり



日本車輛製造から依頼を受け、ホ口の生産開始。
現在も使われている電車の形状のホ口を
日本で初めて生み出したのがNARITAでした。



昭和30年代 新幹線用ホ口を共同開発



新幹線0系新型内ホ口



ホ口自動開閉装置



雪害対策外ホ口

0系（初代）新幹線の開発が進むなかで、
国鉄と協力して新幹線用のホ口開発を開始。
現在でも新幹線の内ホ口は100%NARITA製です。



昭和50年代 バイク部品生産を開始

アルミ溶接の技術が評価され、
バイク部品の生産が拡大



事業紹介

鉄道車両事業

鉄道に使われる部品の設計・生産



高速車両(新幹線)



特急車両



地下鉄



通勤車両



寝台特急車両



モノレール



LRV



海外車両

二輪車両事業

二輪車両(バイク)部品の生産

主要取引先



隼(ハヤブサ)

グラフィック・プリント事業

電車やバスの車両ラッピング、屋外広告のグラフィックプリントなど

その他の事業

建機用コンソール、海上・陸上コンテナ部品・他板金部品

製品例 / 鉄道車両

1 非常脱出扉



2 自動ホロ



3 回転式引戸



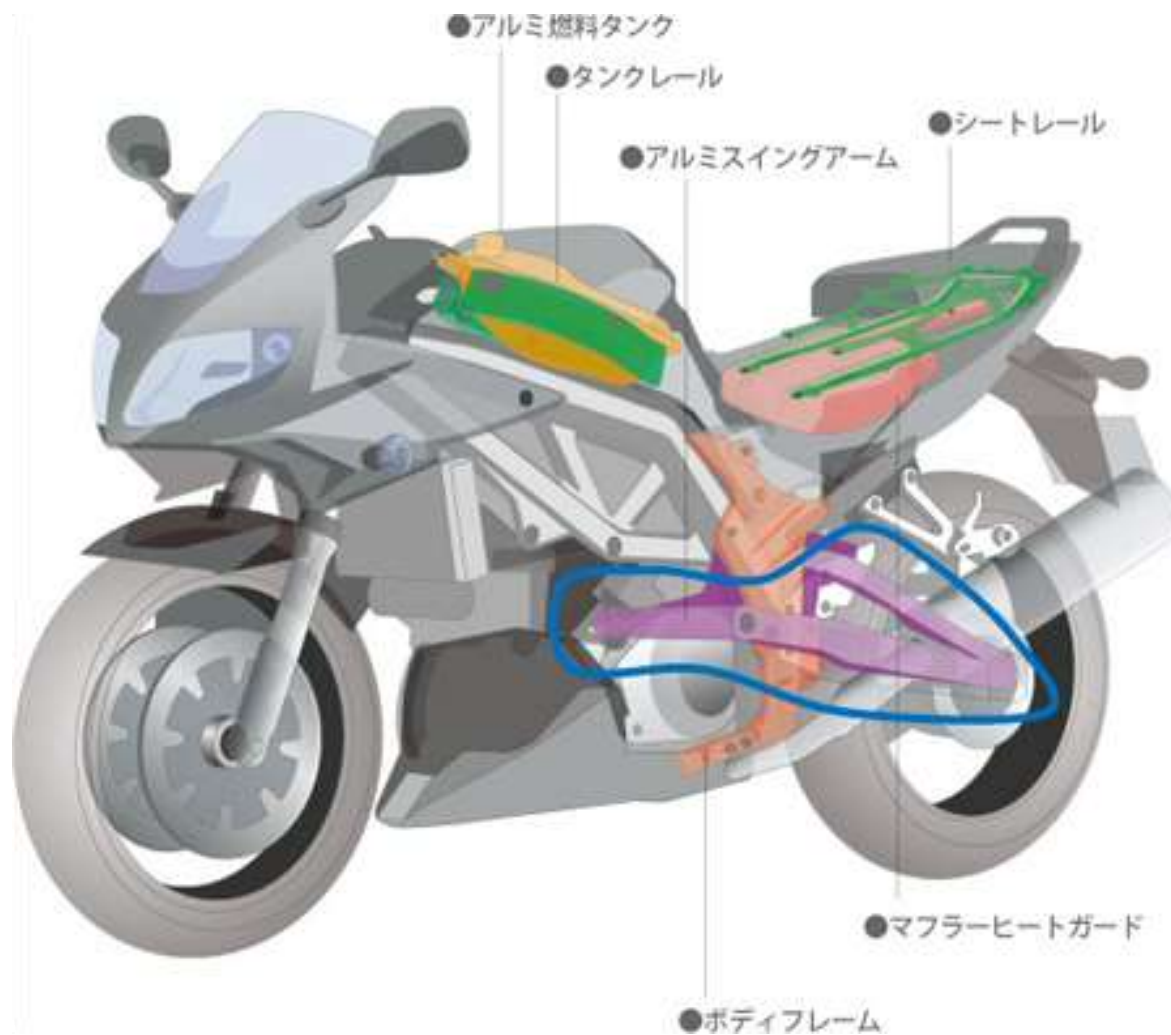
4 新幹線内ホロ



5 連結ホロ



製品例／二輪部品



マフラーヒートガード



ボディフレーム



アルミ燃料タンク



アルミスイングフレーム



シートレール



タンクレール



アルミスイングアーム



鉄道にとって『なくてはならない』会社

国内に走る鉄道の90%はNARITA製のホロがついている。

他社にない高い品質の『オンリーワン』技術

難しいとされるアルミ溶接など、機械化できない熟練技術がある

海外にも展開し、世界中の鉄道に貢献

ヨーロッパ、アメリカ、カナダのほか、アジア諸国にも展開